

令和2年度 第2回石狩市叢書発刊編集委員会

■日時：令和2年12月17日（木）15：30～

■場所：石狩市役所3階 庁議室

■出席者：下記表のとおり

委員・臨時委員		職員（事務局等）	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	田岡克介	総務部長	及川浩史
委員	石橋孝夫	総務部総務課文書・統計担当主査	森本栄樹
委員	村山耀一	総務部行政管理課主査（臨時）	小林 睦
委員	志賀健司		
委員（臨）	三島照子		
委員（臨）	工藤義衛		

【事務局（森本）】

今日の議題は、組見本とデザイン案の確認を頂きたいと思っています。デザイン案が3つ示されています。参考までに、釧路、江別、北見、名寄、札幌の叢書のデザインを図書館から見つけてきました。組見本が①から③まで提示されております。①は字数が44×18で、1ページ当たり792文字、②は同じ44×18ですが、文字が少し薄めです。③は43×19で3タイプ示されております。他の叢書を見ると、800字前後です。今日は、組見本を決めないと、今後の原稿入稿が出来ないので、これは確実に決めたいと思います。これにより1月中旬に初稿が上がってきます。

【村山委員】

小学校高学年や中学生くらいから読めるという条件から、例えば、文書でちょっと難しいところにルビを入れることは出来ないのですか。

【事務局（森本）】

それは、構成上出来ると思います。作業は、委員会でルビを振る必要があります。初稿が上がってきた時に委員会で手分けをして行う必要があると思います。難しそうなものを確認して、ルビをいれることは大丈夫です。字の大きさはどうでしょうか。

【村山委員】

①が良い。

【事務局（森本）】

これが二巻目以降のベースとなります。

【三島委員】

紙の色はどうなるでしょうか。

【事務局（森本）】

印刷部数で印刷方法が決まってきます。それによって、オフセットかオンデマンド印刷で紙も変わってくると思います。

【三島委員】

印刷会社からこの印刷が良いといった提案はありましたか。

【事務局（森本）】

今回は、組見本だけです。来年度印刷に向けて印刷部数や紙質など決めることとなります。

【三島委員】

色と紙質で、すごく違うと思います。金額も違います。

【事務局（森本）】

紙質を良くすることはいいですが、2巻目以降、財源不足で紙質を落とすとバランスが悪くなります。

【田岡委員長】

絵を説明するにはカラーでないとだめだ。

【工藤委員】

吉岡さんが書いたものは、基本的にモノクロです。カラーの絵もあります。

【田岡委員長】

絵の説明は、カラーにすべき。

【田岡委員長】

文書の中で色のことを言っているものはないか。

【工藤委員】

吉岡さんの原稿の中で、色がどうこうというものはありません。

【石橋委員】

契約の中で4、5点カラーが入れるかどうか確認してみてはどうか。

【事務局（森本）】

契約の中で対応できるか確認します。

【田岡委員長】

絵だけは、カラーでいれないとだめと思う。

【事務局（及川）】

来年度の印刷費用も含めて相談させてください。組見本は、どうでしょうか。

【村山委員】

ルビを振ると、行数が変わるでしょうか。

【事務局（森本）】

おそらく、ルビを振っても同じだと思います。

【事務局（及川）】

4 頁、5 頁に両方ルビが振っております。

【田岡委員長】

何処かに、この原稿がいつのことを書いたか、あった方がいいのではないか。

【事務局（及川）】

例えば、この項目は、何年何月、いつどこに掲載されたもののように。

【三島委員】

文書の中に書いてあります。その時代のことが、最後の方でなかったですか。この文書自体がいつの時代の内容なものか何処かで書いてあるのでなかったでしょうか。

【事務局（及川）】

色んなことが集まっており、何年何月にこの原稿を書いたことが分かるような、ただし書きのようなものがあると思います。

【三島委員】

吉岡さんが提出した地図も昭和何年何月と書いてあるはずで、その上で、なおかつ前触れがいるのかどうかです。

【事務局（及川）】

実際、全て組版してからでも遅くはないと思います。

【事務局（森本）】

来年 1 月中旬には初校が上がってきます。写真など入替えすると少しずれるかもしれない。まずは、組見本を決めていきます。

【三島委員】

絶対違うのは、①と②は同じで、③だけ少し違いますね。

【志賀委員】

文字では、リュウミンRとLは、僕はLの方が良いと思います。Rだと、わずかな差ですが太くなるので、全体的に黒く重い感じが強くなるかなと、あと、各節の見出しは、ゴシックですよね。それとのコントラストが、細い方が付くかな、と思います。なのでLの方が良いと思います。

【事務局（森本）】

②ですね。

【事務局（及川）】

村山会長は、①の方が見やすい、とおっしゃっていましたね。ルビが入ればいいでしょうか。

【事務局（森本）】

志賀さんのコントラストということで、題名が浮彫出ることですね。題名が分かりやすいということですね。

【事務局（及川）】

①か②ですかね。

【石橋委員】

志賀さんの意見に従って、②が良いかなと思います。気になるのは、年配者には、頁数の表現が小さいかな、という気がします。本をデザインする人の考え方ありますので。

【事務局（森本）】

ここは、まだ修正ができると思います。どの辺の文字にルビを振るかは、初校が上がってきた時に、委員会で確認しなければならない。

【石橋委員】

追加すると大変であり、基本線はこれでいいと思う。元々、ルビを振っても理解出来ないものは理解出来ないのだから、だから、元の原稿をなるべく生かした方が良いでしょう。

【事務局（森本）】

ルビは最低限の方がいいということですね。

【石橋委員】

あまり増やさない方がいいと思う。作業が大変になると思う。構成の問題もあるし、この後の作業を誰がするかという話しになると、大変だと思う。基本的に、原稿に忠実で、これはというのがあれ

ば、ルビを振る程度でいいと思う。

【事務局（森本）】

分かりました。既に読み込んだ原稿で、写真の入れ替えが簡単にできるでしょうか。

【工藤委員】

いしかり暦を印刷した会社には、カラー写真はカラーで出しています。印刷時に全部白黒にしています。編集業務で写真も多くはないので、契約上の業務の中でできる作業量と思います。

【事務局（森本）】

工藤課長から入手します。印刷会社に確認してみます。組見本ですが、②で進めさせていただきま
す。次にデザインですが、出版の度に変える方法やレイアウトを固定する方法、また、石狩の碑のよ
うに、決まっている所だけ同じにして、その都度写真を入れる方法で3タイプあります。

【田岡委員長】

やっぱり難しい本の部類に入るのだろうか。写真や絵がなかったら、石狩百話は絵があるかい。

【事務局（及川）】

あります。中が縦書きだったら、表紙も縦書きになるのですか。

【田岡委員長】

横書きにすると、凄く硬い感じはするけれど、今で言えばこんな感じなのかね。

【事務局（及川）】

他の町では、中に写真を入れたり、絵を入れたり、そのテーマに沿ったものを差し込んでいくとい
うパターンも出来ると思います。

【田岡委員長】

小学校高学年まで読んでほしいと思うならこちらの方に近い形で。

【事務局（及川）】

田岡委員長がおっしゃっていた絵をこの中にカラーで入れることも無い訳では無いです。

【田岡委員長】

取っ付きやすい方が良くと思う。

【事務局（及川）】

例えば、市の叢書のシリーズには、必ずこのマークが入っているものがあれば、格好良いと思う。

【事務局（森本）】

北見市では真ん中に花みたいなマークが入っている。

【石橋委員】

この３種類の中では、２番目が良いと思う。提示の中ではそう思う。

【田岡委員長】

私も同じく、２番目に一票入れる。

【志賀委員】

好き嫌いでいいますと、これは嫌です。

【事務局（森本）】

印刷会社では、この３つの中では、やはり２番目がお勧めと言っており、石橋委員も田岡委員長も同様な感覚です。

【三島委員】

ここの０１のデザインを変えてほしいです。

【事務局（森本）】

それは、大丈夫です。

【事務局（及川）】

田岡委員長が今デザインされているグラフィックデザインの中で、使えるものはないですか。過去の作品の中で、何か使えるもの無いのですか。

【三島委員】

どうしてここがブルーなのでしょう。

【事務局（森本）】

ブルーじゃない方がいいのでしょうか。

【田岡委員長】

鮭と灯台のようなものがあれば意味があるんだよね。ブラックデザインというか、アートのような、親しみやすく、わかりやすい。しかも、ちゃんとメッセージを持って、例えばアキアジを見たら、石狩じゃないかって思うようなものが探しきれるか、今、それを書ける職員がいるか。

【事務局（及川）】

広報で何かマークはないか。

【三島委員】

洪井さんの絵で何かないでしょうか。

【田岡委員長】

洪井さんは、みんなハートだね。

【三島委員】

洪井さんの灯台はどうか。

【田岡委員長】

洪井さんの灯台も良いよね。

【三島委員】

洪井さんのものは、石狩市に権利があるのですよね。

【事務局（森本）】

あります。

【三島委員】

石狩市のマークあるでしょ、それに、横に1とか2とか書けば良いのでないか。

【事務局（及川）】

市章は意外と資料に映えるかも知れないですね。それに数字が入るのですね。

【三島委員】

数字は、入れた方が良いでしょうね。

【事務局（及川）】

市章と数字の組み合わせで印刷会社をお願いしてはどうか。

【事務局（森本）】

市章のほか、数字の色とかは何かありますか。

【三島委員】

数字に色は青じゃない方をお願いします。

【石橋委員】

01の下に、いしかりシリーズと書いているが、これは違うんじゃないか。石狩何とかシリーズは意味がある言葉か、単に石狩市みたいなもので入るのか。ちょっと違和感がある。

【三島委員】

石狩市のマークの下でなく、横に数字を入れていった方が良い。探すときにも分かり易いと思う。

【田岡委員長】

今、デザイン書けといっても何か現実にならない様な感じがするから。

【三島委員】

私は、石狩のマークで良いと思う。

【事務局（森本）】

石橋委員や志賀委員は、どうでしょうか。

【石橋委員】

石狩シリーズの所が気になって。あとは、これをベースにして、最終的にデザインが確定するまで少し時間がかかるので、こういった方向だけ決まればいいと思う。

【事務局（森本）】

市章をここに入れて数字を横に入れてもらう、色も青でなく01の所はもう少しアレンジしてもらうよう印刷会社に伝えます。ここに写真を載せることはどうでしょうか。

【事務局（及川）】

ここは、意見が分かれるかも知れない。こっちの方がすっきりして良いという人もいるかも知れない。

【田岡委員長】

すっきり感とか、難しい感じはあるよ。カタカナも使って、平仮名も使っているから、全体的に見ると、そんなに難しい本には見えないけれど。

【事務局（森本）】

これをベースにして、ここの市章を入れて、番号・数字を入れてもらい、次回の初稿が上がってきた時にお集まりいただき、確認することによろしいでしょうか。

中に絵や写真を入れることは、次回にもう1度、判断したいと思います。

【事務局（及川）】

色のバランスもあるのですよね、中に入れるものの。

【村山委員】

鮭で行くのですよね。

【事務局（森本）】

今回は鮭になるが、シリーズなのでテーマが変わるかも知れないです。

【村山委員】

テーマが変わっても鮭ですか。テーマ毎で絵も変わってくる訳ですよ。

【事務局（及川）】

そうです。

【事務局（森本）】

確認ですが、発刊は、編集発刊編集委員会ではなく、石狩市でいいですか。

【田岡委員長】

石狩市だ。

【事務局（及川）】

北見叢書は、北見市は、市と教育委員会で連名にて発刊しています。札幌市は違います。

.

【事務局（森本）】

それでは、次に進みます。②の地図と略歴の確認です。略歴は、石橋委員と三島委員の意見を参考に、吉岡さんに案を送り、本人から返事を頂いています。どこかに略歴を載せたいと思います。地図は、ソフトを使用して、作成してみました。これは、場所をずらすなど加工は可能です。もう1枚は、三島さん経由で入手したもので、吉岡さんが書いたものです。これは、本人の了解を頂いており、載せようと思っております。使う地図は、叢書の最初の方に載せる方がいいと思っています。地図はどうですかね。

【田岡委員長】

親船町がないのかどうか、地図も道路も違う、新町、仲町など

【事務局（森本）】

田岡委員長の方で、「ここを書いてくれ」と書いてくれたら、簡単に直せます。

【田岡委員長】

それは大変です。これは現代の地図か。

【石橋委員】

現代の地図ではない。当時、通りの本数とかが足りないから。

【事務局（森本）】

基となる GIS から全部落とし込んでいない。一部しか落としていないです。もっと細かく落とした方が良いですか。

【石橋委員】

主要なものがほしい。石狩灯台、シンボリックなものがほしい。印刷会社にお問い合わせできないか。

【事務局（森本）】

地図は、こちらから入れ込んだものが印刷されると言われている。市側で、操作して作業する必要がある。

【石橋委員】

本来は、リライトとしてもらった方が良い。

【村山委員】

地図の中で、親船町もそうですけれども、そのままではちょっと理解出来ないというか、弁天町でも横町でも道路沿いに左右、町があるので、これではちょっと解釈しづらい。

【事務局（森本）】

GIS のから引っ張って来ていますので、村山さんの指摘は言ってもらえればできます。

【石橋委員】

北海道地図を入れる必要がある。北海道の人は分かるけれども、北海道以外の方は、分からないから。

【事務局（森本）】

石狩市全体はこれで良いでしょうか？これと、旧石狩、本町地区の方はどうでしょうか。

【石橋委員】

PR のために石狩湾新港はどうだろうか。

【志賀委員】

この地図は、シリーズ通して使うイメージですか。

【事務局（森本）】

今回の分として考えております。

【志賀委員】

今後も統一して使った方が良くないかと思うのですが、市の全体図と拡大図がいくつかあるので、どこを拡大したかは、四角などで分かるようにすべき、また、これは好みですが、もう少し、地形的

に川の名前、石狩湾、暑寒別岳など誰もが知っているものは入れた方が良くないかと思います。

【事務局（森本）】

石狩湾や日本海など市側で加工して、また、確認する機会がありますので見ていただきます。

【村山委員】

主な道路沿いや海寄りの地名があるが、例えば発足のように、厚田区の1つの地域も、名前等が無い訳です。内陸部の大事な所の地名も所々あっても良いかな。

【事務局（小林）】

村山委員がおっしゃったような、市全体図で厚田区でないのは、現在の字名でやっているの厚田の発足は、厚田になっているのでここを追加すべきであれば、教えていただければと思います。

【石橋委員】

あまり変更せず、将来的にまた使うこともあるので、その時点で必要なことを追加してはどうだろうか。シリーズの内容に合わせて。

【村山委員】

もしそうであれば、注意書が必要でないか、そういう説明が必要かも知れない。高岡が無いが高岡の八幡町だということでもあります。

【事務局（森本）】

修正して次回にお示ししますが、北海道地図の中での石狩市の場所が分かるものが必要、市全体の地図の中で、例えば川、海、公園など目印となるものがあつた方が良くないということですよ。

【石橋委員】

地図の中にいろいろ入れても、見づらい所がある。バランスの問題もある。作業としては、あまりいろいろとしない方が良くないかもしれない。

【事務局（及川）】

本町地区が道路に沿って、町になっているといった感じですか。

【石橋委員】

主要な名称はこの程度で良いと思う。町並みが古いのをベースにしていると思うが、今の人が見て、今はこの辺かな、そのくらいの想像が付くよう、通りの線だけ足していくとか、それで良いと思います。

【田岡委員長】

これは最新の図面か。今もこれを見ていて、若生町の向こうに八幡町があつたんだと思って、八幡

に住んでいる人にもこれは分からない。

【事務局（小林）】

道道と国道しか載せていないので。他の道が無いので、多分イメージを取りにくいかもしれません。

【田岡委員長】

来札の道路は絶対必要でないか。

【事務局（森本）】

田岡委員長の方で、直す個所を教えてください。それに合わせて修正します。

【工藤委員】

1点確認ですが、今の図の出来上がりの大きさ、今、A4で見せて頂いている訳なのですが、最終的な原稿は、どのサイズになるのでしょうか。

【事務局（森本）】

A4で折り込むか、それを縮小するかと思います。ただ、縮小すると、かなり小さくなります。それもイメージする必要があります。

【工藤委員】

どのサイズにするで、色んな情報を増やした方が良いという意見も色々ありますが、出来上がりを見ると、小さくて分からずらいこともある。出来上がりもある程度想定しておいた方が良くと思います。

【事務局（森本）】

最初、A5でも良いかな思い、あまり情報を入れ込まないで進めておりました。今回、A4サイズで見せていますが、A5であれば小さくなり、その場合には大体の地名が分かれば良いものなのか。

【田岡委員長】

石狩市は長いから、折り込む方が良いでないか。A4サイズ何が何だか分からないだろう。印刷会社が一番得意な所と思うが。

【石橋委員】

基本的に、折り込みにしても良いと思うが、他は全部折り込みでは無く断ち切りで良いと思う。それでやってみてあまり煩雑になるならば逆に間引きするとか。そういった方が良いのではないか。

【事務局（及川）】

実際、この中に入れ込んだら、どんな風になるのか、組版してもらってはどうか。なかなか

イメージ出来ないのではないか。ただ、折り込むのは大きなもの1枚くらいで、他は中に入れた方が良いのでは無いか。その方がすっきりするのではないか。

【石橋委員】

昔の情報が入っているから、可能であれば、折り込みにするか、そういうのは、きちんと見れる様なサイズにした方が良いのでは無いかと思う

【三島委員】

編集長、これは折り込みですか、A4ですか。

【田岡委員長】

出来高に合わせて見本を持って来ないと、こういう風にしたら字がどんどん、こんな字では全然。だから。実際原寸で作ってくれないと。これは原本の大きさなの。

【事務局（森本）】

A4よりもう少し長かったです。

【事務局（及川）】

見開きになったら、丁度、真ん中のところが間に入っちゃうのですね。

【志賀委員】

私の意見としては、やっぱり折り込みは嫌です。すいません、見づらいです。皆さんと意見が違うかも知れませんけれど。

【田岡委員長】

それで始末付くのならば一番良いと思う。

【志賀委員】

問題は、小さくなり過ぎてですよ。ただ、見開きの手間は避けたいな、と思います。

【田岡委員長】

厚田・浜益を抜いて石狩本町だけなのか。

【事務局（森本）】

鮭の原稿に限定しましたので。

【三島委員】

見開きで、この形になるのですか。

【石橋委員】

それは切れば、見開きとなります。

【三島委員】

そういった製本の仕方もあるのですか。

【事務局（及川）】。

紐の所が丁度、綴じる真ん中に来てしまうので。

【三島委員】

この形で横に使ったら、折り込みでも、見開きでも無くて、少しだけ小さくなる。

【工藤委員】

基本的には今、A4で作っていますから、この本に入れるということになると、1ページで言う
と、単純に半分になる。

【三島委員】

見開きにしたら、真ん中がどうなるのですか。なくなるのですか。

【工藤委員】

真ん中は、折れ目が付きますから、無くならないけれどすごく見づらくなります。

【志賀委員】

このまま見開きでは、何か少し加工しないと駄目だと思います。

【工藤委員】

バッサリ2つに切り、片方のページ、片方のページというケースもあります。最後はバッサリ切つて、右ページ、左ページという方法です。

【事務局（及川）】

1回作ってみて、まずは、印刷会社に話をしてみた方がいい。

【事務局（森本）】

吉岡さんには、地図の使用の了解はもらっており、少しの加工は、最終確認はしますが、おそらく了解いただけたと思います。地図については、中に入れ込む形で、トライしてみます。次に進みます。(2)令和3年度の発刊準備ですが、今年度作業を終え、来年度発刊する予定でいます。まず、何部印刷するか、それで印刷方法も変わります。参考に、石狩川河口地域史は500部印刷しています。関係機関に170～180部配布、販売が30部で現在300部が在庫として残っております。参考まで1冊3,500円で販売しております。今回は、学校関係者、図書館に配布することになりますが、どこに配布

するかイメージいただければと思います。部数が決まらないと、予算も確認出来ません。

【志賀委員】

全道の図書館くらいには、送った方が良いと思います。

【村山委員】

郷土研究会では、国立国会図書館、それから北海道立図書館、文書館、北大附属図書館、札幌図書館、函館市などおもな所には、図書館を通じて配布しております。

【工藤委員】

いしかり暦は、通常、配布分で 50 部くらいは使っています。図書館も、主要な図書館だけです。道内も、主要な所しか配っていない。市内の図書館 1 つ取っても、分館もあり、複数部置くこととなる。それだけで、50 部くらい必要となる。道内も主要な所には送っているが、トータルで 50 部くらい。今、志賀委員が言ったとおり、どこに配るのか、読みたい人に読ませる、ということであれば、図書館に配る必要は無いという考え方も出来る。逆に、出来るだけ読んで下さい、ということであれば、読むに足りる人がいるかどうかで無く、基本的な図書館や、少なくとも道内の市町村の図書館に送る必要がでてくる。宅地報告書のようなものは最低 200 部配布。200 部スタートとなるとほとんど一般の人が買える分が無いと思っている。それに、どれだけ積み増ししていくか。

【事務局（森本）】

そういった所に配布して、市内の小中学校にも配布する。また、関係者にも配布するとそれだけで 300 部は最低必要。販売分も考えると、400 から 500 部は印刷しておいた方が、良いと考えるのか。

【工藤委員】

田中實さんの本は、すごく専門的な内容の本なので、なかなか一般の人が買って読むかというと、なかなか難しい部分もあるかと思うのですけれども、郷土研究会のいしかり暦でも、会員の配布以外に、一般の市民で、買って頂く部分は 100 とか 150。市民だけでこのくらいの数が必要です。

【事務局（森本）】

そうなると、500 部はないと厳しいということですね。

【工藤委員】

値段設定もありますが、このサイズの本で、2,000 円とか 3,000 円という値段は付けられない。

【事務局（森本）】

おそらく 1,000 円前後と思います。

【工藤委員】

割と読みたいという方はいらっしゃると思います。あと、発刊して色々宣伝したが、売り切れて、

もう無いですというのは、あまり格好の良いことでは無いなという感じはします。基本的な考え方をどうするか、ということだと思います。さっき言ったように、「読みたい」という人には読んでもらう、ということであれば、全道の図書館に送る必要は無い。恐らく、そんなの興味の無い方も沢山いるのだから。でも、そうじゃなくて、「是非読んで下さい」と、そういうスタンスでやるのだったら、要らないと言っても、うちの方から送って「読んで下さい、見て下さい」という、そういうスタンスになっていくのかな、と思います。

【事務局（森本）】

この後、二巻、三巻目の発刊も同じスタイルを取らなければ駄目かな、と思っています。

【工藤委員】

市の図書館にも、いろいろな叢書があります。これは基本的には送って来ている。読んでくれと。例えば名寄の叢書は、名寄について知って欲しいということで、そういう本を作り、それをアピールする訳だから。それも、公費を使ってやる訳だから。とすると、読みたい人には読ませるけれど、興味の無い、読みたくない人にまで配る必要は無いというのはどうだろうという気はします。

【田岡委員長】

この世界は、仁義もあるしね、向こうから送って来ているのに、送りませんよ、ということも出来ないだろう。

【事務局（及川）】

500 部でどうでしょうか。

【田岡委員長】

デザインも、販売するためのデザインにするのかというのはあるが。これからは、売れると思うよ。この本が売れるかどうかは、分からないが。身近な議題になると、例えば、ソフトボールことを書くと、ソフトボール協会が何百人もいるから、その関係者は、何処に自分の名前が出て来るとかね、昔を思い出すと、一気に広がるし。

【志賀委員】

部数と配布先のことの意見としては、全道図書館に送ることがいいと思います。それが、この本を、いつの人迄読ませるか、ということだと思うのですよ。今の人だけ読めば良いのか、前後の人に読んでもらえば良いのか、を考えた場合に、もし、個人が買うというのに重きを置いてしまうと、買った後、その人が亡くなったら、古本屋に売れるかも知れませんが、結構消えちゃうのが多いと思いますね。だけど、図書館に置いておけば、おそらく 100 年後でも残って、見たい人が見るのかなと思います。

【事務局（森本）】

部数が決まった後、印刷方法はオフセットとオンデマンドに分かれると思います。デザインは自分

のイメージソフトカバーと思っておりますが、皆さんのイメージは合っていますかね。今は、ソフトな感じのカバーがやはり好まれるということです。紙の質は別にして、こういう感じのイメージで、よろしいですかね。紙質は、二巻目以降の印刷も考えると、どれくらいの紙が良いのか。標準くらいが良いのか、次の印刷予算もありますので。

【田岡委員長】

協会からの補助はどうなんだろう。

【事務局（森本）】

振興協会には、来年度、印刷費用を 100 万円として、補助が 50 万円で上げております。

【田岡委員長】

なぜ 200 万円でないのか。

【事務局（森本）】

二冊目の編集作業もありますので、それにも 50 万円予定しております。トータルでは、来年度 150 万円を上げております。100 万円は印刷代、50 万円は、田岡委員長も既にかかれおりますので、来年、二冊目を作る編集費用もかかります。その費用 50 万円を見込んでおります。

【三島さん】

吉岡さんの印刷費は、いくらですか。

【事務局（森本）】

印刷会社に確認しましたが、100 万円もかからないのでないか、言っております。これから見積りを取ります。

【三島委員】

500 部もいらないですよ。

【田岡委員長】

500 部は要る。全道に送り 200 部、倉庫に保管しても良いから、500 部作った方が良い。もう 1 回作れというのは大変だろう。公費で使うのだから、読んでもらうというのと、読みたいものと、両側の役割を持つ性質の本だから。

【事務局（森本）】

補助金については、3 年間、令和 3 年度から 5 年度まで予定しております。3 年間あるので、来年度は吉岡さんの本を発刊し、2 冊目の編集も行い、次年度は、2 冊目の印刷をし、3 冊目の編集を行うということであります。それでは時間が経ちましたので、初稿が上がりましたら、お集まり頂いて、色々と確認してもらいます。その時に、今日、お話ししようと思ったのですが、2 巻目以降のテ

ーマ、ユーカラの件もありましたが、志賀委員、少し話しますか。

【志賀委員】

うちの方で、教育大学の百瀬先生という、人類学の先生がいらっしゃって、浜益のユーカラの調査をやって頂いて、その報告書があるのですが、これが、手製のプリントしたものが、20、30くらいしか無いらしいのですよね。で、百瀬さんの、「これだけでは、もったいない」ということで、自分で出すか、例えば、叢書で田岡さんと話し、聞いたのですが、叢書で出すのなら、百瀬さん、自分で出さないし、むしろこちらの方で出せなさそうなら、百瀬さんが自分で出すこととなる。

【田岡委員長】

それ、字数でどのくらいなるの。

【志賀委員】

100 頁と、あと、資料編が 100 ちょっと。

【田岡委員長】

結構あるね。立派な印刷になるのだよね。これ、1 年間に 2 冊じゃ駄目かい。要は予算の問題だよ。整った原稿があると、仕事はし易いし、間違い無く出来るし。実は、俺の原稿も、先週上がったんだよね。

【事務局（森本）】

結構な量、ありますよね。

【田岡委員長】

それで今、挿絵から何から入れているのだけども、それと 1 回、読んでもらわないと駄目だ。外れている奴は駄目だ。間違っていると、駄目だからね。そして完全に、自分の教訓の中で書いているから、裏は、とにかく取れるものは取っているつもりでも、どちらかと言うと、自分の生活の中で関わったことで、全部作業あるよね、全編。石狩叢書、変化球を出した方が良いのだよね。

【事務局（森本）】

今日、時間が押してしまったので次回に 2 冊目以降のテーマをもしご意見があるのだったら、持って来て頂きたいと思っているのですよね。あと、全体構成の中で、3 番目の解説、吉岡さん生まれた時代の石狩は田岡委員長が書くかも知れない、と言っていたのですけれども、これは無くても良い、ということで、良いですかね。今、これで行くと、1 番目が「はじめに」ということで、これは、田岡委員長が書いてくれたのですけれども、「吉岡さんの略歴」が 2 番目で、3 番目に「吉岡さんの生まれた時代の石狩」となって、4 番目に本編入れ込んでいるのですけれども、3 番目の解説というのは、特に良いでしょうかね。

【田岡委員長】

いないね。

【事務局（森本）】

3番目はいないということです、見積ですが、表紙はカラーで中身は白黒で一部カラー印刷ということで、印刷会社と相談します。長くなりましたが、本日は、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

令和3年1月24日 議事録確定

石狩市叢書発刊編集委員会 委員長 田 岡 克 介